

## 〔連結貸借対照表(要旨)〕

(単位：千円)

科 目	第8期 2010.3.31現在	第9期第2四半期 2010.9.30現在
資産の部		
流動資産	754,638	630,424
固定資産	606,707	573,826
資産合計	1,361,345	1,204,251
負債の部		
流動負債	40,054	38,496
固定負債	10,740	8,253
負債合計	50,795	46,750
純資産の部		
株主資本	1,310,550	1,157,501
純資産合計	1,310,550	1,157,501
負債純資産合計	1,361,345	1,204,251

## 〔連結損益計算書(要旨)〕

(単位：千円)

科 目	第8期第2四半期 2009.4.1～ 2009.9.30	第9期第2四半期 2010.4.1～ 2010.9.30
売上高	42,790	47,705
売上総利益	34,579	7,023
研究開発費	86,577	92,189
その他の販売費及び一般管理費	175,518	87,938
営業損失(△)	△227,516	△173,104
営業外収益	388,561	25,196
営業外費用	—	5,402
経常利益又は経常損失(△)	161,044	△153,310
特別利益	10,000	956
四半期純利益又は四半期純損失(△)	170,349	△153,049

## 〔連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)〕

(単位：千円)

科 目	第8期第2四半期 2009.4.1～ 2009.9.30	第9期第2四半期 2010.4.1～ 2010.9.30
営業活動によるキャッシュ・フロー	117,162	△92,261
投資活動によるキャッシュ・フロー	44,585	△2,200
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	161,748	△94,461
現金及び現金同等物の期首残高	647,052	567,047
現金及び現金同等物の四半期末残高	808,800	472,585

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〈お問合せ〉 ☎ 0120-232-711 〈各種手続用紙のご請求〉 東京 ☎ 0120-244-479 大阪 ☎ 0120-684-479
上場証券取引所	東京証券取引所 マザーズ市場(証券コード 4566)
公 告 の 方 法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.ltt.co.jp/">http://www.ltt.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

当社ホームページでは、事業報告書ではお伝えできない、財務情報や事業内容など、様々な情報を開示しています。是非ご覧になって下さい。

<http://www.ltt.co.jp/>



未来が変わる。  
日本が変わる。



## 第9期 中間事業報告書

(2010.4.1～2010.9.30)



## 当第2四半期の業績及び通期業績修正

## 第2四半期の業績

	実績	当初予想比
売上高	47百万円	22百万円減
営業損失	173百万円	258百万円減
経常損失	153百万円	57百万円減
四半期純損失	153百万円	57百万円減

## 連結業績予想修正について

(単位:百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想	130	△602	△208	△209
今回発表予想	130	△710	△299	△303
増減額	0	△108	△91	△94

- NEDO助成事業に採択されたステルス型ナノ粒子PGE1製剤の早期開発のため予算を増額したこと等により、営業利益が当初予想を108百万円下回る見込みへ。
- NEDOからの助成金収入42百万円を見込むが、研究開発費の増加、配当金収入の為替減収分26百万円等により、経常利益が当初予想を91百万円、当期純利益が94百万円下回る見込み。



## 〔合併等による実質的存続性の喪失に係る猶予期間〕の現状について

当社は、株式交換による株式会社アスクレピオスの子会社化に起因し、平成19年9月1日より平成23年3月31日までを期日として「合併等による実質的存続性の喪失に係る猶予期間」に入っております。

これを解消するために新規上場基準に準じた審査を受ける必要がありますが、期日までに再審査に係る申請が行われない場合、翌日から監理銘柄(確認中)に指定され、猶予期間終了後の有価証券報告書提出日から8営業日までに申請を行わない場合、上場廃止となる銘柄として整理銘柄に指定されます。

再審査申請には証券会社の協力が必須となるため、複数の証券会社に対して幹事証券会社就任の打診を行っておりますが、現時点では、受諾する旨の返答を得るには至っておりません。引き続き当該猶予期間解消に向け全力で取り組んで参ります。

 **LTT Bio-Pharma**  
株式会社 LTT バイオファーマ



(証券コード：4566)



研究開発が順調に推移し、新たな開発戦略からも多くの研究成果が生まれています。

取締役会長  
水島 徹

株主の皆様には、格別のご配慮とご支援を賜り誠にありがとうございます。お陰様で、当社の中核である創薬事業の研究開発は順調に推移しております。特に、PC-SOD吸入製剤の特発性肺線維症治療薬としての開発に関しましては、厚生労働省からオーファンドラッグに指定されるとともに、第I相臨床試験を本年9月に開始することができました。またステルス型ナノPGE1製剤に関しましては、NEDOからの助成金を獲得し、今後2年間で非臨床試験を進めることになりました。一方基礎研究段階にありますNSAID等に関しましては、複数の製薬企業と共同研究への交渉を続けております。また最近注目を集めている、我々が考案した新しい医薬品開発戦略であるドラッグリプロファイリング研究からも、多くの研究成果が生まれています。今後とも株主の皆様のご理解、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

NEDO…独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構



全社一丸となって経営課題の解決と事業の発展に取り組み、企業価値の向上を図って参ります。

代表取締役社長  
鈴木 巖

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。当上半期は、最重要経営課題のひとつである上場維持について様々な取り組みを行って参りました。本課題につきましては現在も継続的に取り組んでおります。創薬事業におきましては、PC-SOD（吸入製剤）がオーファンドラッグ指定ならびにNEDOからの助成のもとに第I相臨床試験を開始しました。さらにステルス型ナノ粒子PGE1製剤についても新たにNEDOからの助成を受けたことにより、前倒しで基礎研究を進めることができました。一方、EIP事業につきましては、顧客の獲得が進んでおり、大手・中堅の製薬企業を中心に顧客企業より概ね予想通りの受注を頂いております。今後も引き続き全社一丸となって企業価値の更なる向上を図って参りますので、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

創薬

最先端の技術によって画期的な新薬の創製を目指して参ります。

PC-SOD吸入製剤 — 研究開発のメインテーマ

- 希少疾病医薬品（オーファンドラッグ）に指定
- 第I相臨床試験を開始、順調に進展中
- ライセンスアウトに向けた交渉を推進

ステルス型ナノ粒子PGE1 — 助成決定で開発が進展

- 新たにNEDO助成事業へ採択が決定
- 熊本大学・聖マリアンナ大学との提携による研究
- 基礎研究から共同研究先を確保すべく探索

新規パイプラインの追加 — ドラッグリプロファイリング

- LT-0301癌幹細胞分化誘導剤のパイプライン化

ドラッグリプロファイリング (DR) 研究

既存医薬品に潜在する適応症以外の病気への薬効を探索し、新たな医薬品として確立する手法。低コストで安全かつ早期に開発が可能。

パイプライン	対象疾患	開発状況
PC-SOD吸入製剤	特発性肺線維症	第I相臨床試験実施中
PC-SOD注射剤	特発性肺線維症 潰瘍性大腸炎	第II相臨床試験終了 北京泰徳製薬へライセンス済
ステルス型ナノ粒子PGE1製剤	末梢血管病変	基礎研究
AS-013	末梢血管病変	第II相臨床試験終了 北京泰徳製薬へライセンス済
NSAID	炎症性疾患	基礎研究
SRG	白血球減少	基礎研究
LT-0301	癌	基礎研究

EIP

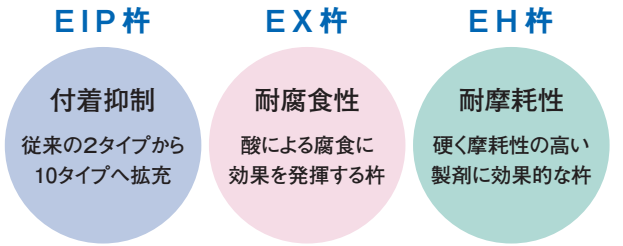
エコロジー+コスト削減を実現し、医薬品生産の現場に革命を起こします。



第2四半期までに前通期相当分の売上を確保

- 高性能・高単価なEIP・MH杵の売上が伸長
- 受注ベースでは60百万円程度まで積み上げ済み
- 大手製薬企業等からの正式導入による受注が増加

EIP杵の製品ラインナップを大幅拡充



累計売上高の推移と見通し

